

Q・夏は下痢することが多いですが、原因や治療法を教えてください。

A・下痢の原因としては

- (一) ウイルス感染(夏カゼ)
- (二) 細菌感染(食中毒)
- (三) 食物・飲み物によるもの
- (四) その他、食べ過ぎ、食べ合わせ、薬剤、特殊疾患などが考えられます。

このうちのほとんどが、(一) ウイルス感染によるものです。夏かぜと呼ばれるもので、手を介して口から入ったウイルスが腸で増殖し、病気を起こします。腹痛・下痢などの症状が上で熱が出たり、喉が痛くなったりします。予防には手洗いが、有効です。食中毒は怪しい物を食べてから半日〜一日で下痢、腹痛を起こします。また、夏には生野菜、すいか、など消化の悪いものを食べることで多くなります。これも下痢の原因になります。三〜四日で自然に治るものがほとんどです。飲食を少なくして、様子を見て下さい。

院長



がんの末期と安楽死

このところ京都の病院で起きた、安楽死についての話題が新聞やテレビをにぎわしています。また、昨年は東海大での安楽死で事件がありました。

◎安楽死の条件

- 一、本人が希望している。
- 二、家族が認めている。
- 三、不治の病気で、死の時期がせまっている。
- 四、複数の医師が安楽死を認めているなどが条件となりますが、現在日本では認められていません。



◎今度の京都の場合

患者さんにごんと説明していただけないので、本人は希望していません。家族は「早く楽にしてあげてほしい」と懇願していたこと、またがんの末期ということ、二、三の条件は満たしているようです。しかし、院長、主治医、看護婦が治療方針で、一致していません。結局二、三の条件は満たされていますが、一、四は満たされていません。

◎がんの末期はどこで過ごすか

- 一、病院に入院する。
- 二、ホスピスに入る。
- 三、自宅で在宅医療を受ける。などの方法がありますが、私は二、三、自宅で在宅医療を受けるが良いと考えます。介護する家族に負担はかかりますが、人生の最終を家族と共に過ごすということは、患者さん、本人にとつても大変意義あることです。

◎がんの末期治療とはどんなことをするのか

苦しみや、痛みをとることを最優先させます。最近では、いろいろの薬剤が出ておりますので、苦しみや痛みをあまり感じないで過ごせます。たいていの場合死の直前は、痛み止めの麻薬などがかなりたくさん使われていますので、痛みなどは感じていないはずで、す。それでも周囲にいる人々からは、苦しそうに見える、早く楽にしてあげたいという気持ちが湧いてくるものです。

◎がんの末期の理想的な方法

○がんの診断がついたら、その段階で、できるだけ早く患者さんに教え、今後の方針を決める。手術する時には、その前、又は退院前に、よく説明する。精神的な面で支援が大切です。

◎末期治療は家庭で

こういう時こそ住み慣れた自分の家で、家族に囲まれた生活をなるべく長期間過ごせることが、患者さんにとつてもつとも幸福なことでしょう。



◎安楽死をはかることがむずかしい理由

○がんの告知がむずかしい
がんと告知されると、ほとんどの患者さんはパニック状態となつてしまふでしょう。この時の精神的援助がむずかしいので、つい告知をせずに死ぬまで嘘をつき通さなければならぬ事になり、また、安楽死にもつてゆくことができなくなります。

○医療スタッフの意志統一がむずかしい
一般に大病院では、医師が指示し、看護婦が投薬することが多いのですが、殺人罪を問われる覚悟で協力し合うのは大変むずかしいことです。

これらのむずかしい条件を克服して、がんで苦しんでいる人々が、楽な気持ち良い時間を少しでも長く過ごせるよう、みんなで努力して行かなければなりません。

☆受付けからのお願い
月初めには必ず保険証を受付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。

7月・8月の休診日
(日曜・祭日
水曜・土曜・第一火曜午後)
8月8日(木)午後
8月14日(水)
～8月16日(金)

